

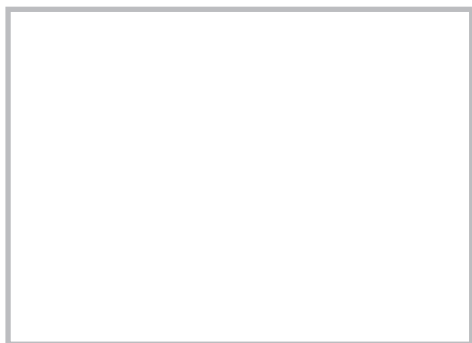


図 25.10 頭部白癬 (tinea capitis)

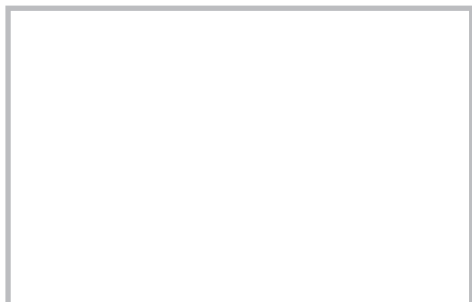


図 25.11 Celsus 禿瘡 (kerion)

Trichophyton tonsurans

MEMO

canis による症例も散見され、この場合は炎症症状が強い。

同様に顔面に生じる白癬には白癬菌性毛瘡もある。中年男性の上口唇部に好発（図 25.9）し、須毛部（口ひげ、顎ひげ、頬ひげ）全体が発赤腫脹して、毛孔から膿汁が排泄される。毛を引っ張ると容易に脱落する。ひげ剃りやステロイド外用薬の誤用による発症が多い。須毛部に生じた Celsus 禿瘡（後述）ともとらえられるので、治療は Celsus 禿瘡に準じて内服療法を行う。

6. 股部白癬 *tinea cruris*



俗称は“いんきんたむし”である。成人男性に好発し、多くは足白癬を合併する。陰股部や殿部を中心に、体部白癬と同様の環状紅斑を形成する。瘙痒が強く、対称性に発症する。陰囊は侵されにくい。年余にわたって放置された症例も多く、難治性で抗真菌薬の内服を要することもある。

7. 頭部白癬 *tinea capitis*



俗称は“しらくも”である。小児に多い。毛髪に菌が感染した状態である。被髪頭部に境界明瞭な脱毛巣を形成し、病変部位には乾燥性で枇糠状の鱗屑と短く切断された毛髪を認める。病毛が毛孔部分で折れて黒点ができるものを black dot ringworm と呼ぶ。瘙痒や疼痛などの自覚症状は少なく、通常は炎症を伴わない（図 25.10）。

8. Celsus 禿瘡 *kerion*



ステロイド外用薬の誤用などを基礎として、頭部白癬など毛包部の白癬に真皮の炎症が加わることがある。紅斑や毛孔一致性の丘疹、膿疱、さらに扁平から半球状の膿瘍を生じるようになり、これを Celsus 禿瘡という（図 25.11）。疼痛を伴い、軽度の波動、膿汁の排出をみる。病変部は脱毛し、残った毛髪も容易に抜ける。所属リンパ節の腫脹や発熱などの全身症状をきたす。ペットを介して感染する *M. canis* が最も多く、幼小児に好発する。最近、*T. tonsurans* によるものが増加傾向にある（MEMO 参照）。病理組織学的には毛髪に白癬菌の感染を認め、

浅在性白癬と深在性白癬

MEMO

毛包周囲に炎症細胞浸潤がみられるが、真皮で菌は増殖していない。

9. 白癬菌性肉芽腫 ^{にくげ} granuloma trichophyticum

同義語：Majocchi granuloma

下腿の体部白癬などに対してステロイド外用薬を誤用、乱用すると、皮内、皮下に結節を生じることがある。扁平隆起した湿潤性局面や大きな腫瘤状局面を形成することもあり、臨床的に硬結性紅斑（18章p.355参照）との鑑別を要する（図25.12）。

b. カンジダ症 candidiases

Essence

- カンジダ属による皮膚および粘膜感染症。
- 病変部位と症状から、カンジダ性間擦疹、乳児寄生菌性紅斑、カンジダ性爪囲炎、^{がこうそう} 鷺口瘡などの病名が冠される。
- 水仕事従事者の職業病、性感染症（STI）、日和見感染としての側面をもつ。
- 治療は病変部の清潔と乾燥化、イミダゾール系抗真菌薬外用など。

分類・病因・症状

カンジダ属は、培養条件により酵母と菌糸の形態をとる二相性真菌（酵母様真菌）の一種である。病原性のあるカンジダ属は7～10種類存在する（表25.2）が、大部分は *Candida albicans* による。カンジダ属は健常人の口腔、糞便、陰に常在しているため、病変部位から培養されただけではカンジダ症と診断することはできない。鱗屑、^{たいげ} 帯下、爪などを直接鏡検して、カンジダが観察される程度に増殖していることを証明する必要がある。糖尿病やステロイド長期内服、AIDS患者など免疫能低下状態にあるとカンジダ症を発症しやすく、消化管カンジダ症などの内臓病変も形成しうる。すなわち、内因性真菌症あるいは日和見感染としての側面をもつ。

診断

KOH直接鏡検法で、ブドウ状胞子と仮性菌糸を証明する（図25.13）。胞子が存在する、菌糸に隔壁がなく分枝状になっている点が白癬との鑑別になる。膿疱、鱗屑、爪の角質、^{はくたい} 白苔や帯下を、メスや粘着テープなどを用いて採取する。また、Sab-



図 25.12 白癬菌性肉芽腫 (granuloma trichophyticum)

体部白癬を湿疹と誤診され、ステロイド外用薬を長期間使用したことにより、浸潤性病変を生じた例。

表 25.2 ヒトから培養される主なカンジダ属の菌種

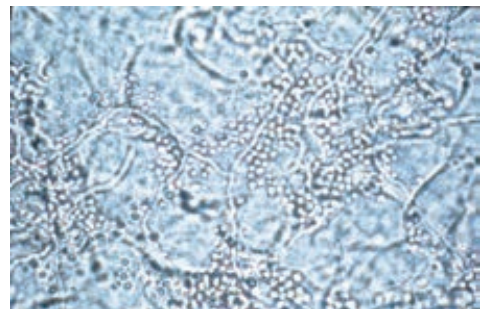


図 25.13 カンジダの KOH 光学顕微鏡像
糸状の仮性菌糸とブドウ状胞子を認める。

β-D-グルカン

MEMO